

下：改修前の辻番所

キーワード 足軽辻番所、トラスト運動、コモンズ構想

◎私たちが行ったこと

琵琶湖湖畔に位置する彦根は、江戸期の城下町の街並みを極めてよく残すまちです。特に、彦根市芹橋2丁目は、城下町にとって不可欠な足軽組屋敷の街並みを残す地区です。今でも幅一間半で「どんつき」「くい違い」のある道筋を保ち、その中に30数件の足軽組屋敷が点在しています。

この地区のほぼ中央部に、両角に「覗き窓」のある辻番所と併設の足軽組屋敷があります。平成19年8月にこの足軽辻番所が売却されるという情報が、わがNPOに持ち込まれました。これまでの例からみると、売却されるとマンションに建替えられ、足軽辻番所は消滅してしまいます。

特定非営利活動法人

彦根景観フォーラム

ミッション

美しい自然環境と
歴史的遺産を持つ彦根の景観を、
住民とともに考え、活かし、
文化の担い手という意識を高めながら、
守り育て、慈しみ、
未来に向け働きかけていくことを
目的としています

設立年月 2002年9月

メンバー数 60名

代表者名 山崎 一真

滋賀県彦根市馬場1丁目1-1

特定非営利活動法人

彦根景観フォーラム

TEL 0749-27-1141

hikonekeikan@hotmail.com

<http://hikonekeik.exblog.jp>



足軽とは「足軽く疾走する歩卒（ほそつ）」という意味。防備が軽いので身軽に動け、戦の場合には主力部隊になったことから名付けられた。平時は下級役人の職に就いた。

彦根藩の足軽は最盛期、1120人いた。その家族や隠居した人たちも住まう組屋敷地区が、城下町の周辺部に数箇所設けられた。本活動地区はそのうちの最大のものである。

彦根古民家再生トラスト

足軽辻番所の買取・再生に必要な資金を集めるために平成19年12月1日に設立した組織。この運動が引き金になって市は「彦根文化財保護基金」を設けた。また、市との交渉の結果、「市が買取し、民が自主運営する」方向が決まった。トラストで集めた資金は市に寄付し、平成20年12月末に解散した。

足軽辻番所建物の活用方向の見極め

消滅の危機にある足軽辻番所を保全するために、次の手を打ちました。一つは所有者と交渉して売却を翌年3月まで待ってもらい、同時にわがNPOの先買について合意したことです。他の一つは買取・活用資金を確保するために、「彦根古民家再生トラスト」を立ち上げ、我がNPOと地元の有志グループ「芹橋足軽倶楽部」が中心になってトラスト運動を開始したことです。

本活動の目的は、大別すると2つあります。第1は首尾よく買取した後に足軽辻番所をどのように利用するかを見極める活動、第2は継続的利用のためにどのような経営の仕組みづくりが可能かを模索する活動です。もちろん、これらの活動成果は、適宜トラスト運動の促進に利用する、このような意図をもっていることを、予め明らかにしておきます。

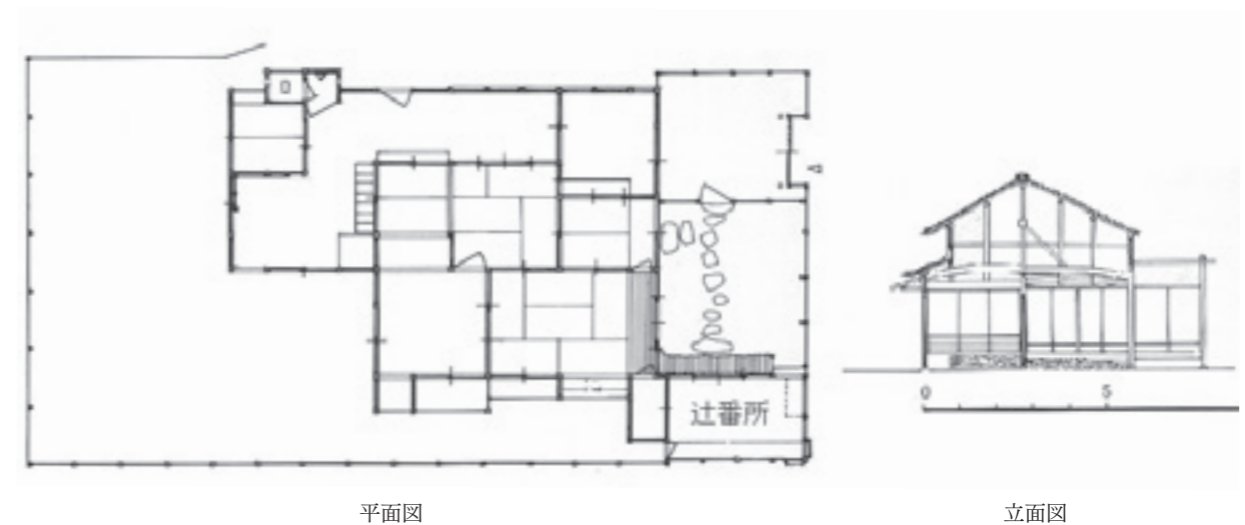
トラスト運動を成功させ、首尾よく足軽辻番所を買収した後、この建物をどのように利用するか。この方向を見極めるために、次の4つの活動を実施しました。

1. 建物実測と応急対策工事
2. 近隣環境・周辺環境条件・立地条件調査
3. 足軽コモンズ構想の作成
4. 実現化ワークショップ

1. 建物実測と応急対策工事

実測調査の結果、足軽辻番所の構造・広さ・毀損状況が判明しました。建物の諸元および平面・立面図を示します。

左：修理前
中央：解体作業中
右：修理後



足軽辻番所建物の諸元

敷地面積：231㎡ (70坪)

建物：旧足軽屋敷部分 (木造瓦葺2階建延べ床面積 90.90㎡)

辻番所部分 (木造瓦葺平屋建延べ床面積 6.61㎡)

建築時期：江戸期後期 (明治以降、増改築)

建築面積：約 68㎡ (敷地の2/3は前庭と後庭)

間取り：部屋は和室で、6畳間1、4.5畳間2、3畳間1、3畳弱1の計5室

一見したところきれいに見えますが、内部を調べたところ柱や梁、塀が蟻によって大きな被害を受けていることがわかりました。ちょっとの振動で崩壊の可能性が指摘されたこと、伝統的建造物修理専門家に工事の依頼ができることから、建物毀損への応急対策と庭木の手入れを行いました。その際、教育委員会文化財課および文化財審議会委員の了解をとりました。





左ページ：昭和33年に日本画家上田道三氏によって描かれた足軽組屋敷

そして、地区内に点在する足軽組屋敷を歩いて巡り、往時の様子を理解する「歩く博物館」というアイデアが構想されます。

この三つの場（共有の場、体験・交流の場、歩く足軽博物館の核施設）が機能するようになれば、彦根に新しい散策路が出現することになります。

4. コモンズ構想の実現化ワークショップ

6月と8月にコモンズ構想の実現化を考えるワークショップを2回開催しました。10名程度の班に分かれ、足軽辻番所と芹橋地区の良い点・悪い点について感想を出し合いました。

私たちが大切にしていること

私たちは、景観の維持・向上を手掛かりに「地域デザイン」を目指しています。その活動は、地域の持続的発展に向けて構想・計画などを企画考案し、その実現に向けて関係者に働きかけ、法制度の整備や自己組織化などを実践することです。

それぞれの地域組織を立ち上げ、独自の構想を掲げて地域課題に立ち向かい、成果を確認しながら新たな挑戦を続ける。このような一連の挑戦の連なりを地域発達と呼んでいます。

体験を通して人や組織が進化し、それが新たな挑戦と成果を生み出し、さらに進化する、このダイナミズムは発達と呼ぶにふさわしいと考えるからです。このダイナミズムが地域に根付くと、以降は持続的発展の過程を辿るでしょう。

私たちが大切にしていることは、景観の維持・向上を手掛かりに、地域発達のきっかけをつくり・それを支え・自立を促し・自律して歩む、その介添者になろうとする気概です。

2. 周辺環境等調査

本物件の位置する芹橋地区は、彦根の代表的な二つの歴史・自然スポットに挟まれ、しかも、彦根の歴史的な商業集積に至近であるという、大変広域環境に恵まれた地区です。

またこの地区は、四方を主要道路と川で囲まれ、江戸期の筋がそのまま地区内道路として利用されている閑静な住宅地です。

3. 足軽コモンズ構想の作成

これまでに述べたような本物件の条件や特性を踏まえて、NPO会議で議論した結果、「足軽コモンズ構想」という考え方を提唱することになりました。本物件は、トラスト運動に賛同して浄財を提供していただいた方々によって買取り運営しようとするものであるため、社会全体で使うコモンズとっていいと思います。

一番使い勝手がよくて管理運営しやすいのは、間違いなく、そばにいる方たちです。この人たちが、自分たちの共有空間として活用することが第一に想定されます。

また、地元の人たちが、案内したり、お世話をしたり、歴史の一端を説明する体験・交流の場が二つ目に想定できる使い方です。

良い点

悪い点

足軽辻番所	歴史の魅力 懐かしさ 落ち着いた風情	老朽化
芹橋地区	彦根城をどこからでも見ることができる 路地や見越しの松などの美しい原風景 静かで安全	自動車が入りにくく不便 地震や火災時に救急車や消防車が入らない 貸家・空家が多く住民の一体感が低い

地元では「狭く不便」とされた路地が、外来者からは、「美しい原風景」と高く評価された点は、印象的でした。その後、コモンズ構想の実現化案を班ごとに発表しました。主な案は次のとおりです。

足軽コモンズ構想の提案

①コモンズとしての利用

地域の集会場、地域の人と学生や地域の文化に触れたい人が交流するコミュニティハウス、子供と高齢者が交流する場などとして活用する。／地域の人が本を持ち寄るミニ図書館とする。／大学生の下宿としての活用、あるいは歴史に関心を持つ人たちが泊まれる民宿にする。

②足軽文化の紹介と創造の場としての利用

建物を文化財に指定し、歴史遺産として復元する。／ボランティアや地域の協力を得て、常時公開する。

③歩く足軽博物館の核施設としての利用

足軽組屋敷資料館として、歴史や生活を紹介、小中学生が地元の歴史を勉強する場にする。／大勢の観光客には抵抗があり、散策のルールを決めて地域博物館にする。

足軽 commons の経営の仕組み づくりの模索

買収後の足軽辻番所をどのような経営方式で継続的利用を図るか、その仕組みづくりに向けて、次のような模索を行ないました。

1. 地元有志による「彦根辻番所の会」の立ち上げ、
2. コモンズ・足軽文化の紹介と創造の場としての利用などの実験。

1. 「彦根辻番所の会」の設立

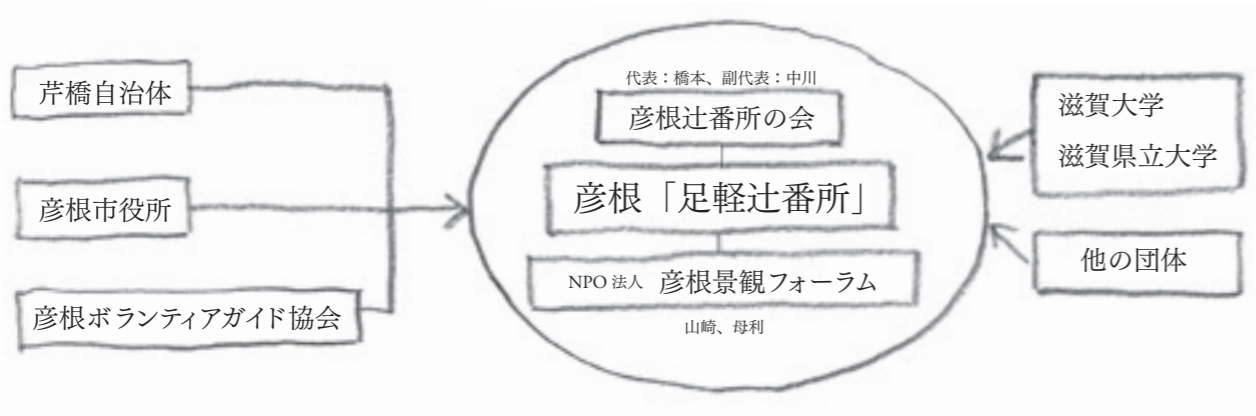
コモンズ構想に則って足軽辻番所を有効に活用し続ける仕組み、それは地元住民による運営組織とわが NPO とが協力・連携する仕組みだと考え、地元運営組織の設立を模索しました。

足軽辻番所のある芹橋地区は人間関係が非常に複雑なため、地元住民による組織づくりなど無理だ、特に、足軽組屋敷の価値を評価する人は僅かなため、その運営組織に参加する人などいない、と見られていました。しかし、地元在住のトラスト呼びかけ人自らがその趣旨を説明して参加を依頼したところ、比較的短時間に運営組織を立ち上げることができ、平成 20 年 10 月 10 日に、「彦根辻番所の会」が発足しました。

これは、地元住民が足軽組屋敷や辻番所などの建造物やそれらが点在する街並みに、歴史的価値を認め、残さなければならないと考えるようになったためだと思われまます。

足軽辻番所の管理運営に当たっては、「彦根辻番所の会」とわが NPO が協力・連携することとし、滋賀大学、滋賀県立大学、彦根市や教育委員会、ボランティアガイド協会とは緊密な連携を図るものとしています。

足軽辻番所の管理運営体制のイメージ



下：辻番所サロンの様子



2. 足軽辻番所の利用実験

足軽 commons 構想で想定している利用のうち、特に「歩く足軽博物館の核施設としての利用」の可能性について、利用実験を行いました。

足軽善利組の本拠地を出自とする芹橋地区、その歴史を聞き、文化を体験し、生活の移り変わりを語り合う場を足軽辻番所サロン『芹橋生活』と呼び、継続的開催の可能性を探るものです。

語り合う内容は、歴史・文化・生活で、月 1 回第 3 日曜日に、足軽辻番所で開催しました。

◎私たちが伝えなかったこと

野に埋もれているものの歴史を証言する貴重な遺産の価値を、市民運動を通して社会の認識に高めそれによって、保存・再生の道を切り開くことができます。

挑戦すべき未来の姿 (= コモンズ構想) を提示し、シンポジウムなど通じて社会的理解を促せば、関係者の関心を惹起することができます。また、ワークショップなどで自らが提案者であるという状況を作り出せば、関心から参加へと進む人たちも現れると思います。

関心から参加へと進んだ人たちを中心に自己組織化が生じ、市民中心の運動体になります。そのことを「彦根辻番所の会」が示しました。

この運動体は市民・住民のものであることから、身の丈にあった、本当に必要な行動が次々と沸き上がり、組織発展が生じています。

主体性を持って自ら動けば、小さな第一歩ではあるものの、夢に近づくことができます。動かなければ、何も始まりません。



彦根景観フォーラム

左：まち歩きで足軽組屋敷の解説に聞き入る参加者

滋賀県彦根市芦橋地区

右：辻番所の閲覧日の様子



自分たちの住んでいるまちが、こんなに歴史的に価値があることを知って、驚いた。
ワークショップへの参加者の声

◎エピソード

彦根市当局は「彦根古民家再生トラスト」運動に応えるべく「文化財保護基金条例」を制定し、当物件を8月末に買収しました。トラストで集めた資金は市に寄付し、市所有・市民の自主運営という形で再生することになったのです。

市当局は11月中に本物件を市の文化財として指定し、さらに、承認された「彦根歴史まちづくり計画」に則って、21・22年度に解体修理をする予定です。このような進展は、わがNPOが中心になって展開した、トラスト運動の成果だと考えています。

解体修理期間中は、本物件は利用できません。そのため、近傍の足軽組屋敷を借用して、自主管理組織の活動は継続する計画です。もちろん、修復なった暁には、本物件の自主管理組織として活動する所存です。

団体設立経緯

2003年に「日仏景観会議・彦根」を滋賀大学・滋賀県立大学が中心になって開催。そのための実行委員会を彦根市・滋賀県・彦根商工会議所・彦根観光協会・商店街連盟・建築士会で組織化した。会議では、彦根の歴史講演・古写真の発掘と展示・歴史的建造物の来歴調査と語り部養成・散策コースの開設・日仏の景観議論などを行った。景観会議を恒久事業とすべく、そのときのメンバーでNPO法人を立ち上げ、継続して歴史を生かしたまちづくり活動を実施している。

◎私たちの“これから”

地元の人たちが自分たちの共有空間「足軽commons」として活用しつつ、来訪者に地元の歴史を伝え・体感する場を提供し、さらに、地区内に点在する本物の足軽組屋敷を巡る「歩く足軽博物館」の核施設として活かせると思います。

◎私たち自身で活動を評価

トラスト運動によって対象物件を買い取り、それを自ら運営する、という強い信念がベースにありました。しかし、周辺住民の人たちが最初から協力的だったわけではありません。古い地区だけに、むしろ批判的であり、よくて傍観的でした。

最終的には、当初の計画を凌ぐ成果が出せたのは、NPOメンバーに専門家がが多く、その発言に対して社会的信用が高かったこと、メディアが特にトラスト運動を好意的に取り上げてくれ、賛同の輪が広がったことが上げられます。

国から「彦根歴史まちづくり計画」の第1号承認を得、解体修理の対象建造物になったことは、本事業の成功を裏付けるものと評価していいのではないかと考えています。

こんなに素晴らしい成果が出せるとは、正直予想していなかった。
取り組んでよかった。
団体メンバーの声